

令和7年度 学校経営計画書及び学校評価計画書

かほく市立宇ノ気中学校
校長 本山 久美子

1 経営理念

- (1) 学校は、基礎・基本の定着と活用力の向上を図り、主体的に学ぼうとする態度を育成する場である。
- (2) 学校は、組織的な取組で生徒の「人間力」を育成する場である。
- (3) 学校は、健康・体力向上への意識を高め、積極的に挑戦する場である。
- (4) 学校は、安全で美しく整備され、生徒が生き生きと自ら活動できる場である。
- (5) 学校は、地域に根ざし、生徒・保護者・地域に信頼される場である。

2 教育目標 『 知性と創造力に富み 人間性豊かな たくましい生徒の育成 』

3 中・長期的目標

- (1) めざす生徒像 ~自分の考えを積極的に表現する生徒~
 - ①自ら学び自ら考え、向上心を持って意欲的に取り組む生徒
 - ②互いに尊重し、思いやりと豊かな心を持って行動する生徒
 - ③集団生活での規範意識を持ち、責任を持って行動する生徒
 - ④健やかに生きる体力や健康づくりに積極的に取り組む生徒
 - ⑤郷土の自然や文化に親しみ、地域を愛する生徒
- (2) めざす教師像 ~学び続ける教師~
 - ①生徒の成長を願い、強い情熱と使命感を持つ教師
 - ②教育の専門家として自己研鑽に励み、確かな力量を持つ教師
 - ③組織の一員としての自覚をもとに、協力して職務を遂行する教師
 - ④生徒・保護者・地域から信頼される、豊かな人間性を持つ教師
- (3) めざす学校像 ~明日も行きたい！いじめのない学校~
 - ①生徒が生き生きと活動する、さわやかな活力ある学校
 - ②安全・安心で、一人一人の生徒の居場所のある学校
 - ③保護者や地域に信頼される学校

4 学校の現状

(1) 生徒

- ・全体的に落ち着いており、真面目で明るい生徒が多い。また、様々な活動に積極的に取り組む生徒が増えた。
- ・学習習慣や主体的に学習に取り組む姿勢に二極化の傾向があり、基礎・基本の定着を図り、自ら課題を解決する力や自分の考えを表現する力を高める必要がある。
- ・基本的な生活習慣や学習習慣に課題がある生徒が見られ、家庭との連携に加え、市や外部機関と連携する必要がある。

(2) 教職員

- ・日常的に生徒理解に努め、問題行動や学級の実態を共通理解し、学校全体で全校生徒を育てていこうとする意識が高まってきた。
- ・自己目標の達成や学校研究の充実に向けて取り組んでいるが、生徒に対して「付けたい力」を常に意識し、共通実践を着実に進めていく必要がある。
- ・配慮が必要な生徒がどの学級にも少なからず在籍しており、全教職員が情報を共有するとともに、さらに特別支援教育の研修に取り組み、具体的な方策を身に付ける必要がある。

5 カリキュラム・マネジメント（短期目標）

（1）カリキュラム・マネジメントの柱

他者と協力し、問題解決することができる力

（2）現状

- ・自分の考えや意見が伝わるように、資料や文章などを工夫して発信しようとする生徒の割合が増加した。
- ・各教科の課題や表現する場の設定、さらに教育活動全般にわたって生徒を育てるという教師側の共通理解・共通実践に課題がある。

（3）取組内容

①教科横断的な視点

- ・カリキュラム・マネジメントの柱に基づいた「教科におけるめざす生徒像」を設定し、すべての教職員の共通理解の下、教育活動を実施する。
- ・総合的な学習の時間や生徒会活動を中心として、各教科での学びを生かし、生徒が表現する機会の設定や発表会を実施する。

②P D C Aサイクルの確立

- ・生徒アンケート、教員アンケートの実施（7月、12月）
- ・校内研修会、教科部会を充実させ、「他者と協力して、問題解決すること」について検証する。
- ・学校運営協議会（年4回実施）の委員からの意見を反映させ改善する。

③人的・物的資源の活用

- ・総合的な学習の時間を中心とし、外部人材を活用した学習活動を実施する。

（4）日程（年間計画）

- ・7月、12月に実施する生徒アンケート、教員アンケートの結果より分析、検証を行う。7月の検証結果は後期の教育課程に、12月の検証結果は次年度の教育課程に反映させる。

（5）組織

- ・「カリキュラム・マネジメント部会」を主任会（管理職、教務、生指、研究、各学年主任）で構成する。部会において、取組の分析・検証を実施し、職員会議等で報告する。また、必要に応じて、学年会等で具体的な方策について話し合う機会を設定し進めていく。

6 短期（今年度）経営目標と取組内容

魅力のある学校づくり

○組織的な学校運営 …… 共通実践の徹底は組織力を最大限に引き出す

○人間力の育成 ………… 非認知能力「自己理解・他者理解・セルフマネジメント」

○学び続ける教職員集団 … 凡事徹底、率先垂範

（1）学力向上に向けた計画的実践 一人一人の「わかった、できた」の実現を目指して

①学力向上に向けた授業づくり

- ・学習指導要領に対応した授業力の向上（思考の流れ・生徒指導の4つの視点）
- ・教科の見方・考え方に基づく「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進★（他者と協力し、問題解決するちから育成：カリマネの柱）
- ・I C Tの効果的活用による「個別最適な学び」の推進（GIGAスクール構想の推進）

②学力向上ロードマップ、教科等の資質・能力育成シートを基にした取組の推進

- ・学力調査結果の活用と弱点克服のための取組の推進及び教科部会の充実
- ・学習規律の定着と家庭学習の習慣化に向けた取組の推進
- ・読書活動や読書習慣の定着と図書館運営の推進

（2）生徒指導の充実 自己指導能力の育成を目指して

①積極的な生徒指導の推進

- ・伸び伸びと過ごせる楽しい学校・学級づくり 「友達を大切にする学級・学校に」
- ・「認めて」「褒めて」「伸ばす」指導の充実（集団の質向上へ繋げる実践）

- ②いじめ・不登校への組織的対応と安心できる居場所づくり ★
・生活アンケートの効果的活用、未然防止・早期発見・早期解決
・社会的自立を目指した「ソレイユ（S S R）」の効果的活用
→かほく市S S Rの理念「子供たちの多様性を認め、社会的自立を目指し『チーム学校』で支援する」ことを全教職員で共通理解及び共通実践
- ③基本的生活習慣を高める指導の徹底
・時間を守る行動、黙働清掃、元気な挨拶等
・生徒活動（生徒会や三役会）の活性化
- ④教育相談の充実（不登校への対応と未然防止）
・月1回の計画的面談、スクールカウンセラーや関係機関との連携・協力
・I-checkを活用した生徒理解やエンカウンター等の積極的な取組
- ⑤特別支援教育の充実 ★
・「個別教育支援計画（ピンクファイル）」「個別指導計画」に基づく指導・支援
特別に支援を要する生徒への共通理解と合理的配慮を意識した個に応じた支援
- (3) 信頼される学校づくり
①防災を含む安全教育の推進
・「命を守ること」の防災教育・安全教育の推進
- ②コミュニティ・スクールの推進
・地域環境（ひと・もの・こと）の積極的活用
(他者と協力し、問題解決することができる力の育成：カリマネの柱)
- ③積極的な情報発信と学校公開
・ホームページ、学校・学年だより等の充実
- (4) 教員の人材育成
①「若手教員早期育成プログラム」の計画的実践
・学年会を中心とした若プロ→職員全体で若手を育てる意識の向上
・若手のニーズに基づいた校内研修の実施
→教員同士の対話の中から学ぶスタイルに
- (5) 教職員多忙化改善に向けた取組の推進
①業務の効率化を図るための取組の推進
・「チーム担任制」と校務分掌のスリム化の推進
- ②教職員の時間外勤務時間の削減
・時間外勤務時間調査を継続し、効率的な働き方を意識した業務内容の見直しとライフワークバランスの充実
・働き方改革の取組について、保護者や地域へ周知の工夫

★かほく市重点目標